

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24220002	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	マルチエージェントモデルに基づく持続可能な言語サービス基盤の世界展開	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	石田 亨（京都大学・大学院情報学研究所・教授）

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>言語グリッドの世界展開とフィールドでの実証実験については、進捗に若干の遅れがあるようであるが、言語サービス提供のインセンティブ設計と連邦制運営のための制度設計は概ね計画どおりであり、期待どおりの成果が見込まれると判断できる。今後は、オープン言語グリッドについて、外部の研究機関に働きかけて実証実験を増やし、さらに、欧米と日本語の言語インタフェースを整合させるための言語サービスオントロジーを関係者で協議し、決定することが望まれる。それにより、提案する言語サービスの応用が拡大することを期待する。</p>	

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	<p>当初の研究目的である、言語サービス提供のインセンティブ設計は、予定どおりの成果が達成されている。次に、言語サービス基盤の連邦制運営のための制度設計は、アジアレベルで225言語サービスという、申請時の約2倍の規模が達成され、計画以上の成果を上げたと言えるが、汎用的な言語サービスオントロジー設計に基づく欧米の大学・研究機関との連携についてはあまり成果が出ていない。一方、研究成果の公表については、国内の学術雑誌及びシンポジウム等へは勿論のこと、国際的に著名な学術雑誌及びシンポジウムにも研究成果が公表されており、評価できる。</p>